

### すばるの

### 日常活動

正治 綾子

Aさん(横地分類A1)は、他利用者に話しかけている職員の声や歌いかけ、楽器の音が聞こえてくると声を出して笑いながら聞いています。何かが始まることを期待しているようです。しばらくして、聞こえてくる声や音が小さくなったり大きくなったりすると、眼の動きがだんだんとゆっくりになっていき、動きが止まります。先ほどまでのワクワクした様子ではなく、声や音が小さくなったり大きくなったりする変化にじっと興味を持って聞いているようです。職員が「活動を始めますね」とAさんの手に触れると、真剣な表情に変わりました。何かが始まることを感じていたようです。職員が繰り返し返される部分に声の強弱をつけて「やまびこさん」を歌いかけました。歌いかけが始まると、Aさんが目を大きくくさして歌いかけに注目し始めました。繰り返し部分の部分を小さく歌いかけると集中して聞いていました。特に「やまびこさん」や「やーっほー」

と伸びるフレーズに耳を澄ませて聞いていました。「よーほっほっほっほー」と歌の中心で職員が声の強弱をつけて歌うと、動きを止めて声の強弱を感じているようでした。「終わります」と声をかけ、音が空くとAさんは大きく一息つきながら全身の力を抜いていました。1曲の中にある伸びるフレーズに注目して最後まで集中して聞いていました。



また「はしれカボチャ」という絵本の語りかけをしました。この本は、おばあさんと動物たちの会話がリズムミカルにすすんでいく本です。始めは、「やい！ばあさんおまえを食ってやる！」「どうか食べないでくれ」と強い口調の動物たちと、弱々しい口調

のおばあさんの会話が出てきます。後半になると「走れよカボチャ・ゴロンゴロン」とリズムミカルな言葉のフレーズが繰り返し出てきます。動物達の強い口調からおばあさんの弱々しい口調の会話交互に聞こえてくると、Aさんは表情を緩めたり、顔を左右に振ったりして聞いていました。後半の「走れよカボチャ・ゴロンゴロン」とリズムミカルなフレーズが繰り返し出てくると、それまで緩んでいた表情がだんだんと真剣な表情になっていきます。特に「ゴロン・ゴロン・ゴロン・ゴロン」と擬音語になると、体の動きを止めて注目して聞いていました。リズムミカルなフレーズや伸びるフレーズを繰り返しに語り出すリズムを感じて聞いているようでした。



### 小児利用者同士の関わり

高木 智美

Aさん(6歳男児、横地分類A2)がキーボードから流れる音楽に合わせて鈴を振って遊んでいました。Bさん(12歳男児、横地分類A2)はAさんから2m位離れた場所です。今年4月、あおばで生活し始めたBさんは、他の利用者に近いことはなく、少し離れたところから皆を見ているだけでした。そしてAさんが近づいて身体に触れると、眉間にしわを寄せ離れていくことがありました。Aさんをじつと見つめていたBさんは徐々にAさんに近づいていき、Aさんが持っていた鈴に手を伸ばし、掴み、引つ張りました。するとAさんは、一瞬ハツとした表情になり、両手に力を入れて鈴を取られないように引つ張り返しました。Bさんは真剣な表情でさらに強く鈴を引つ張りました。Aさんは、今まで自分が手にして遊んでいた玩具を他児に持っていかれそうになるという経験がありません。しかし途中からAさんは鈴を手から離してニコニコしながら

らBさんの両手を持って揺らし始めました。Bさんも鈴を引つ張り合っている時の表情とは違い、ニコニコしながらAさんの手を揺らしました。ふたりは顔を見合わせて楽しそうに一緒に遊んでいるようでした。



Cさん(7歳男児、B3)は、他児が急に近くにくると、その子に向かって払いのけるように手や足を出して、近づいてくるのを避けることがあります。それは以前、他児がCさんに近づいた時に、身体や足が接触したことや、急に近づいてきたことでCさんが驚いたことがあり、その経験が関係しているようです。しかし、Dさん(3歳男児、A2)が近づいても、手や足で払いのけようとすることはあ